国内総生産

国内総生産とは，一定期間内に一国内で産出された財サービスのうち，同一期間内にふたたび生産に投入された財サービスを除いた残りを，市場価格で評価した価値額の総計である．

国内総生産は，その国の総所得の主要な決定因である．

I. 生産額を確定する範囲

A. 一定期間内（通常 1 年）— フロー量，ストック量の区別に注意：

a. フロー量：　一定期間あたりの値として測られる量（生産量，所得など）

b. ストック量：　一時点の値として測られる量（資本ストック，貨幣流通量など）

B. 一定地域内

1. 基準：　国境で囲まれる一国の領土
2. さまざまな地域の総生産：　一国内の一地方，特殊な経済圏（例：　香港）

II. 最終生産物 final product

A. 中間生産物と最終生産物の対比

1. 中間生産物
   a. 期間内に生産されたもの（生産物）
   b. 期間内に生産に投入されるもの（中間投入，中間消費）
      (1) 期間内に最終消費に用いられない
      (2) 期間末に残っていない
2. 最終生産物
   a. 最終的な欲求の充足に用いられた消費者財 — 最終消費
   b. 期末に残っている生産者財 — 資本形成（投資）：　将来の生産の準備
      (1) 固定資本形成
      (2) 在庫増（減）

B. 支出との関係

1. 閉鎖経済：　最終消費支出 + 投資支出（国内総資本形成）
2. 開放経済：　最終消費支出 + 投資支出（国内総資本形成）+（輸出 − 輸入）

III. 付加価値

1. 産出額と中間投入額の差
2. 最終生産物の価値との関係

	I	II	III	最終生産物	産出
I	2	10	4	4	20
II	4	186	60	150	400
III	1	44	95	360	500
付加価値	13	160	341	514	
産　　出	20	400	500		

$$4 + 150 + 360 = 13 + 160 + 341 = 514$$

（最終生産物の合計）=（付加価値の合計）

IV. 国内総生産が含む生産の範囲

A. 「生産」ということばの意味：　「交換を通じて他の人の欲求を充足する行為」
   1. 広い定義：　サービス，輸送，商業
   2. 家計内の活動を除く

B. 国内総生産に含まれない活動
   1. 地下経済（観察しにくい市場）
   2. 外部効果（専有，市場の欠如）

最近日本の GDP の推移（兆円）

暦年	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005
GDP	504.3	515.2	504.8	497.6	503.0	497.7	491.3	490.3	498.3	501.4

参考文献

教科書．第 2 章，第 1 節.

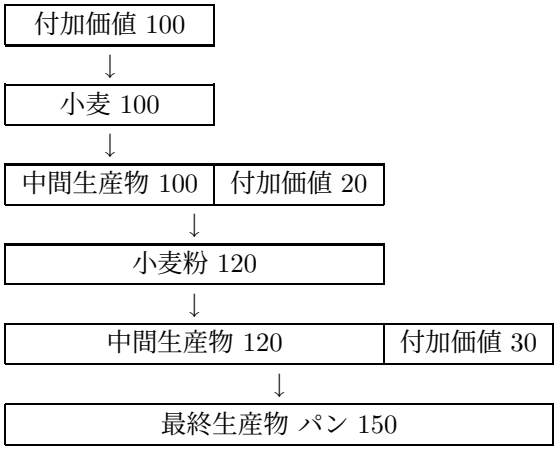
酒井正三郎訳（1972）『ヒックス　経済の社会的構造』第 4 版．東京：同文館．第 2 章.

内閣府経済社会総合研究所編（2007）『国民経済計算年報　平成 19 年版』東京：メディアランド.

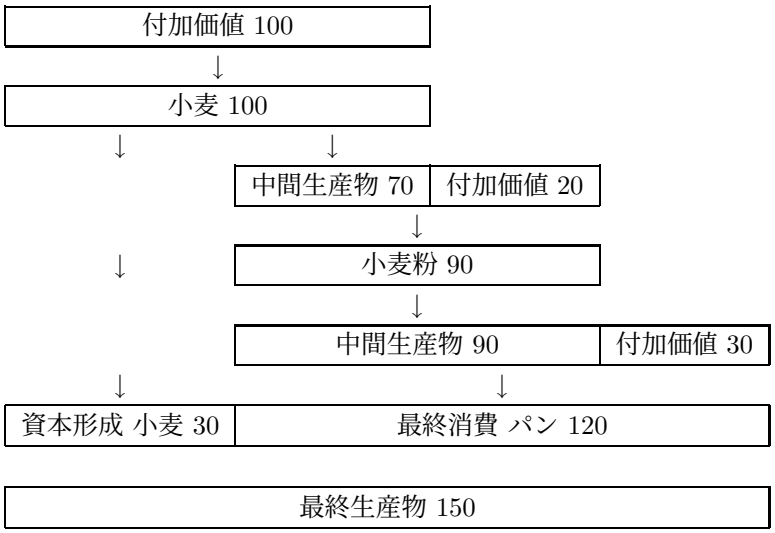
付　　録

A. 最終生産物と中間生産物，付加価値

1. 最終生産物がすべて消費される場合



2. 最終生産物の一部が来年以降の生産のために蓄積される場合



B. 生産物の流れと使途

使用の場	単用財，サービス	耐用財
家計	最終消費 　食料 　消耗品 　サービス	投資（固定資本形成） 　住宅 　消費者耐久財
企業	中間消費（投入） 投資（在庫増） 　原材料 　製品	投資（固定資本形成） 　建物 　機械 　設備

家計が行う投資のうち，統計上，投資に計上されるのは住宅建設のみ